

共同点検理解度確認シート（相模川：相模）

問1：重要水防箇所とは、どのような場所でしょうか？

- ① 洪水時に水防上、特に注意が必要な箇所
- ② 河川環境上、特に注意が必要な箇所
- ③ 平常時に遊びの場として利用を推奨している箇所



問2：相模川右岸 6.0k+100m～6.4k+100m 地点では下表の通りの重要水防箇所が設定されています。設定理由の水衝・洗掘の危険性の説明として正しいものは①～③のどれでしょうか？

区間	重水防要水防箇所ランク	設定理由
右岸 6.0k+100m～6.4k+100m 地点	B	水衝・洗掘

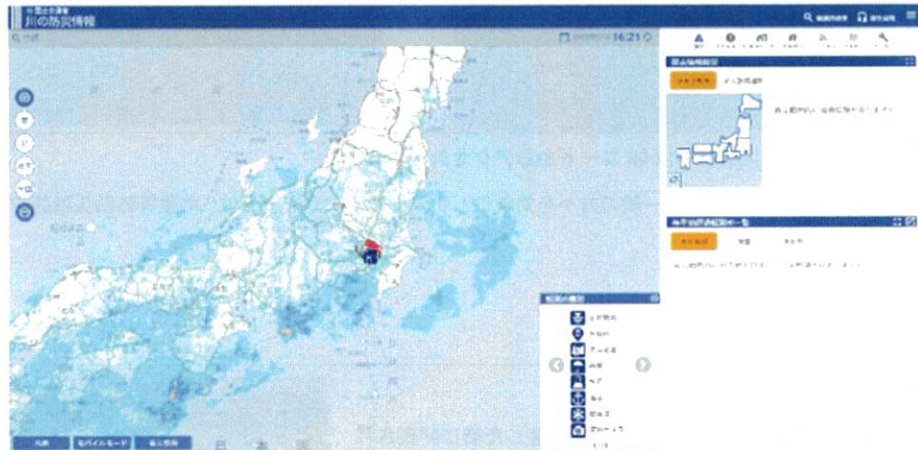
- ① 洪水時に河川水が堤防下の地盤を通じて住宅や農地などがある側（堤内側）に浸透・流出する可能性が高い箇所
- ② 昔は川であったところで、現在は堤防となっている箇所
- ③ 洪水時の水の流れによって堤防前面の河床が深掘れしたり、堤防護岸の根固め等の破損が発生する可能性が高い箇所

問3：洗掘による被災時に行う水防工法として適切なものは①～③のどれでしょうか？

- ① 月の輪工法、釜段工
- ② シート張り工、木流し工
- ③ 積み土のう工、改良積み土のう工

問4：国土交通省が『雨の状況』、『川の水位と危険性、予警報』などの情報をリアルタイムに発信しているウェブサイトは次のどれでしょうか？

- ① ツイッター
- ② 川の防災情報
- ③ インスタグラム



問5：警戒レベル⇨河川の基準水位⇨取るべき避難行動の対応で正しくないものは次のどれでしょうか？

	警戒レベル	河川の基準水位	取るべき避難行動
①	警戒レベル2	氾濫注意水位	災害が既に発生している状況であり、命の危機が迫っているため直ちに身の安全を確保する
②	警戒レベル3	避難判断水位	自治体からの高齢者等避難の発令を確認するとともに、高齢者等以外の方も避難の準備や自らの避難の判断を行う。
③	警戒レベル4	氾濫危険水位	自治体からの避難指示の発令を確認するとともに、避難指示が発令されていなくても自ら避難の判断を行う

共同点検理解度確認シート（回答）

問1 答え：① ※詳細はQRコードからもご確認ください

重要水防箇所とは、『洪水等の時に、特に注意が必要な箇所』のことをいいます。洪水の時には、地域の水防団の方々が土のうを積むなどの「水防活動」をして、堤防を守ります。

この際、堤防は長いので、現在の堤防の高さや幅、過去の漏水などの実績などから、あらかじめ水防上重要な区間（『重要水防箇所』）を決めておけば、より効率的な堤防の点検ができ、危険な箇所の早期発見につながります。



重要水防箇所説明

問2：③ ※詳細はQRコードからもご確認ください

『重要水防箇所』は、その箇所の堤防の状態などにより「越水（溢水）」「堤体漏水」「基礎地盤漏水」などのくつかの種別に分類されます。

設定されている種別とその危険性について理解することで、洪水時に確認すべき事象や取るべき対応などをより具体的に考えることができます。



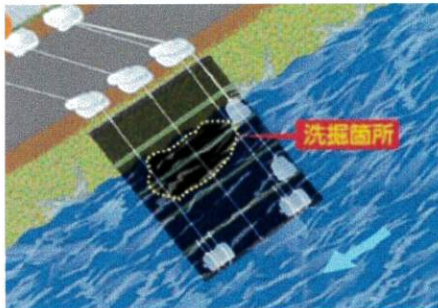
重要水防箇所評定基準

問3：② ※詳細は本日の共同点検配布資料からご確認ください

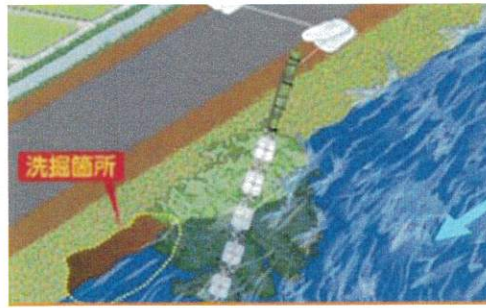
共同点検配布資料（被災要因に応じた巡視ポイントと水防工法説明資料）のとおり、洗掘による被災時にはシート張り工、木流し工により被災箇所を保護します。

月の輪工法、釜段工は漏水時、積み土のう工、改良積み土のう工越水・溢水時の工法になります。

シート張り工



木流し工



問4：② ※川の防災情報へはQRコードからアクセスできます

「川の防災情報」では、広く一般の方々を対象に、リアルタイムの河川水位、雨量等の防災情報を提供しています。



川の防災情報（一般用）

問5：①

「警戒レベル2」は、氾濫注意水位に到達した時に発表されるものです。ハザードマップ等により災害が想定される区域や避難先、避難経路を確認し、今後の災害発生に備えることが必要です。

また、災害が既に発生している時には「警戒レベル5」として発表されますので、この時には身の安全を確保してください。

